

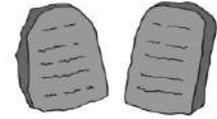
家庭礼拝ガイド 365 日－5 月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
5/1	出エジプト 20:7	出エジプト 20:7	御名をみだりに唱えてはならない
5/2	出エジプト 20:8～11	出エジプト 20:8	安息日は聖なる日
5/3	出エジプト 20:12	出エジプト 20:12	父と母を敬え
5/4	出エジプト 20:13	出エジプト 20:13	殺してはならない
5/5	出エジプト 20:14	出エジプト 20:14	姦淫してはならない
5/6	出エジプト 20:15	出エジプト 20:15	盗んではならない
5/7	出エジプト 20:16	出エジプト 20:16	偽ってはならない
5/8	出エジプト 20:17	出エジプト 20:17	貪ってはならない
5/9	出エジプト 35:21	出エジプト 35:21	感動した者
5/10	レビ 6:8～13	レビ 6:13	火を消してはならない
5/11	レビ 19:2	レビ 19:2	聖なる者とならなければ
5/12	民数記 13:17～14:9	民数記 14:9	カナンの偵察
5/13	民数記 20:1～13	民数記 20:13	メリバの水
5/14	民数記 21 章	民数記 21:8	青銅の蛇
5/15	申命記 6:1～9	申命記 6:5	聞きなさい
5/16	ヨシュア 1 章	ヨシュア 1:9	雄々しくあれ、強くあれ
5/17	ヨシュア 3 章	ヨシュア 3:13	ヨルダン川を渡る
5/18	ヨシュア 5:13～6:20	ヨシュア 5:15	エリコ
5/19	ヨシュア 24:11～28	ヨシュア 24:15	信仰の確認
5/20	士師記 6 章	士師記 6:14	ギデオンの召命
5/21	士師記 7 章	士師記 7:18	300 人の勇士と勝利
5/22	ルツ 1:15～22	ルツ 1:16	ナオミとルツ
5/23	I サムエル 1:1～20	I サムエル 1:11	サムエルの母ハンナ
5/24	I サムエル 3:1～21	I サムエル 3:10	サムエルの祈り
5/25	I サムエル 16:1～13	I サムエル 16:7	主は心を見る
5/26	I サムエル 17 章	I サムエル 17:47	ダビデとゴリアテ
5/27	I サムエル 18:1～5	I サムエル 18:3	愛は人を輝かせる
5/28	I サムエル 24:1～22	I サムエル 24:15	ダビデとサウル王
5/29	I 列王記 3:3～15	I 列王記 3:12	ソロモンの願い
5/30	I 列王記 17:1～16	I 列王記 17:16	預言者エリヤ
5/31	I 列王記 19:1～8	I 列王記 19:8	主の使いのパンと水

5月1日

テーマ：「御名をみだりに唱えてはならない」

聖書箇所：出エジプト記20章7節



◆今日のみことば

“あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。” 出エジプト記20章7節

◆メッセージ

神さまのご性質を表すには、いろいろな言葉があることを知っていますか。いっぱいある中で、3つの言葉について学んでみましょう。

第一に、神さまは「すべてのものを造られた神さま」と呼ばれています。神さまはこの世界にあるすべてのものをお造りになったのです。ただ造っただけでなく、すべてのものを守ってくださっています。神さまはすごいですね。

第二に、「聖なる神さま」と呼ばれています。神さまはきよい、正しいお方だということです。神さまはうそをつくこと、いじわるをすること、おともだちのものを盗むことなど、悪いことをすることが嫌いです。むしろ、おともだちに優しくすること、お父さんやお母さんの言うことをよく聞くこと、イエスさまのことをよく学んで、イエスさまのようになることを神さまは喜んでくださいます。聖なる神さまは私たちが正しく歩むかどうか、いつも見ておられるのです。



第三に、「愛の神さま」と呼ばれています。神さまが私たちに「あなたのことが大好きだよ、愛しているよ」と言ってくださっています。ただ言うだけでなく、私たちの心の中にある汚い罪をきれいに洗い流すために、神さまのひとり子のイエスさまを私たちのために与えてくださったのです。イエスさまは私たちのために十字架にかかり、私たちが受けるべき罰を私たちの代わりに受けてくださったのです。私たちがイエスさまを心の中に迎え入れるとき、神さまは私たちの汚い罪をきれいに洗い流してくださいます。

神さまは素晴らしいお方です。そんな神さまのことを軽々しく口にしないように。「神さま」と口に出して言うとき、「すべてのものを造られた神さま」、「聖なる神さま」、「愛の神さま」という名前でも呼ばれる素晴らしい神さまであることを覚えましょう。おともだちにも神さまが素晴らしいお方であることを伝えましょう。

◆お祈り

「神さま、私たちの口から出る言葉を守ってください。神さまの名を呼ぶとき、神さまのすばらしさを思い出し、神さまに感謝する心を与えてください。」

(内郷キリスト福音教会牧師 笠川徹三)

5月2日

テーマ：「安息日は聖なる日」

聖書箇所：出エジプト記20章8節～11節

◆今日のみことば

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

出エジプト記20章8節

◆メッセージ

このみことばは、神さまを信じて生きる私たちにとって、とても大切なことを教えています。

それは、「安息日」つまり「礼拝の日」を、「聖なる日」＝「特別に大切な日」とすることです。

私たちが忙しい毎日の中で神さまを忘れてしまわないために、神さまが用意してくださった特別な日だからです。

どのくらい大切でしょうか？それはイエスさまが、安息日をいつも大切にされたことから分かります。「(イエスは) いつものとおりに安息日に会堂にはいり、朗読しようとして立たれた。」

(ルカ4:16)

そして、イエスさまが十字架にかかれる前の一週間を見ると分かります。最後の安息日について聖書を調べてみると、マタイの福音書には何も書かれていません。マルコにも、ルカにも、ヨハネにも。実は何も無いのです。きっと、いつものとおりに会堂で礼拝をしていたからです。あと一週間しか時間がないのに、イエスさまは安息日を守られたのです。

何かしようと思えば出来たはず。でも、イエスさまは丸一日休んで礼拝されたのです。イエスさまは、礼拝が何よりも大切だと考えておられたということです。きっと礼拝で神さまからの特別な力をいただいていたのです。



イエスさまが、忙しいお働きの中でも、最後の一週間でも、静かに礼拝する時間を大切にされたのなら、私たちにはもっと必要だと思いませんか？

私たちも礼拝の日を大切にしましょう。(もしどうしても、朝の礼拝や教会学校に出られない時は、牧師先生に相談してみてくださいね。)

◆お祈り

「神さま、私もイエスさまのように礼拝の日を大切にします。助けてください。」

(いわきキリスト教会牧師 増井 恵)

5月3日

テーマ：「父と母を敬え」

聖書箇所：出エジプト記20章12節

◆今日のみことば

あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。
出エジプト記20章12節

◆メッセージ

神さまは、十戒の5つ目に「あなたの父と母を敬え」と言われました。

わたしたちがこの世に生まれてきたのは、お父さんとお母さんがいたからです。神さまは、お父さんとお母さんを用いて、わたしたちをこの世に生まれさせ、育てる

ようにさせました。わたしたちは、お父さんとお母さんを自分で選ぶことはできません。お父さんとお母さんは、神さまから与えられた大切なプレゼントです。お父さんとお母さんには、わたしたちを守り、助け、大切に育てる責任があります。

「敬う」には、二つの意味があります。

一つ目は「従う」ということです。わたしたちは、お父さんやお母さんの言うことに「はい」と従うことが大切です。

二つ目は、「尊敬する」ということです。お父さんとお母さんは、愛をもってわたしたちのことを産み育ててくれています。また、神さまがわたしたちに与えてくださった大切な人たちです。そのお父さんとお母さんを、とても大切な人として尊敬することが教えられています。

「ありがとうございます」と、感謝の気持ちをあらわしましょう。

なぜ、わたしたちはこのことをしなければならないのでしょうか。聖書には、「これは正しいことだからです」(エペソ6:1)。また、「それは主に喜ばれることだからです」(コロサイ3:20)。とあります。正しく、神さまが喜ばれることを、わたしたちは喜んでしたいと思います。

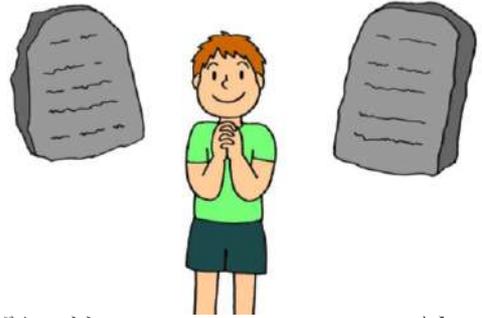
また、わたしたちがお父さんやお母さんを敬うことを学んでいくとき、天の父である神さまを敬うことをまた教えていただくことになるのではないのでしょうか。

そして、神さまは父と母を敬う人に、祝福の約束を与えてくださいました。それは、長生きをするということです。神さまが教えておられることをおこなう人を、神さまは喜んで、祝福してくださいます。

◆お祈り

「お父さんとお母さんに従い、尊敬するものとしてください。」

(下北沢聖書教会羽村会堂伝道師 井原 幸)



5月4日

テーマ：「殺してはならない」

聖書箇所：出エジプト記20章13節

◆今日のみことば

殺してはならない。

出エジプト記20章13節

◆メッセージ

小さな子でも他の人のいのちを取ってしまうことは、ぜったいだめだと知っていますね。

でも、なぜ人を殺してはいけないと、神さまがあなたに命令するのでしょうか。それはね、神さまがあなただけでなくみんなをととても愛しているからです。もしあなたが、一生懸命、作った物をだれかにこわされたら悲しい

よね。神さまだってとっても大事につくったわたしたちが、こわれていなくなっちゃったら、とても悲しまれています。だから、どんなに悪い人だって死んじゃってもいいなんて、神さまはぜったいに思われません。それに神さまは、他の人のいのちだけでなく自分のいのちだって殺してはいけないよ、と思っ

ていらっしやいます。時々、いじめられたり、つらくなって自殺してしまう子どもがいるけど、そんな事をしたら神さまは、とても悲しまれています。だからあなたも、他の人のいのちも自分のいのちも、大切にしくちやいけないよ！

きっとあなたは、「人を殺すなんて、絶対しない」と思っているだろうけど、イエスさまがこんな話をされたのを知っているかなあ。自分の兄弟に向かって腹を立てて「ばか」と言ったりするのも、殺すのと同じだよと、イエスさまが言われました（マタイ5：21～22）。びっくりだよね！

頭

にきて、お家の人や兄弟、お友達にひどい事を言ってしまうと、それはその人のことを「殺してしま

う」と同じぐらい、ひどい事ということです。ある小学校1年の女の子が、大きなお兄ちゃんたちが楽しそうに「地獄におちろ」と言っているのを聞いていました。その女の子は、教会学校の先生に「お前なんか死んでしまえ、地獄におちろ」と言っ

てしまいました。その子は「地獄におちろ」という言葉がひどい言葉だと知らないで使っ

てしまいましたが、もし知っていてその言葉を使ったら「殺人」をするのと同じぐらい、いけない事

です。他の人が使っているから、と使っ

てしまっていることはないかな。これからは、もしあなたが頭にきて、誰かにひどいことばを使いたくなったら「殺してはならない」という神さまの命令を思い出

しましょう。

◆お祈り

「これからは、自分のいのちも他の人のいのちも大切にします。頭にきててもひどい言葉を使わ

ないように助けてください。」



5月5日

テーマ：「^{かんいん}姦淫してはならない」

聖書箇所：出^{しゅつ}エジプト記^き20章^{しょう}14節^{せつ}

◆今日のみことば

^{かんいん}姦淫してはならない。

出^{しゅつ}エジプト記^き20章^{しょう}14節^{せつ}

◆メッセージ

学校^{がっこう}に行く^い道^{みち}、帰^{かえ}る道^{みち}を歩^{ある}く時^{とき}、どんなこと^きに気^きをつけていますか。横断歩道^{おうだんほど}を渡^{わた}る時^{とき}に、信号^{しんごう}が青^{あお}であっても車^{くるま}が止^とまっているかを確認^{たし}めることが大切^{たいせつ}です。また、赤信号^{あかしんごう}の時^{とき}は渡^{わた}ってはいけないという交通ルール^{こうつう}（きまり）がありますね。もし、信号^{しんごう}が全部^{ぜんぶ}なくなり、交通ルール^{こうつう}がなくなったとしたら自由^{じゆう}に歩^{ある}くことができるでしょうか。いいえ、安心^{あんしん}して歩^{ある}く事^{こと}ができなくなつてしまいます。学校^{がっこう}のルールがどうしてあるのでしょうか。家族^{かぞく}のルールにはどんなものがありますか。考^{かんが}えてみましょう。

神^{かみ}さまはイスラエルの人^{ひと}たちが、しあわせに生^いきるために、とても大切^{たいせつ}な「してはいけない」十^{じゅう}のルール（きまり）を教^{おし}えて下^{くだ}さいました。その中^{なか}の7番目^{ばんめ}のルール（きまり）が、「姦淫^{かんいん}してはならない」ということでした。

このルールは、神^{かみ}さまが世界中^{せかいじゅう}の人^{ひと}々に教^{おし}えてくださったルールなのです。このルールは、私^{わたくし}たち家族^{かぞく}のみんながお互^{たが}いを大切^{たいせつ}に思^{おも}いやり、安心^{あんしん}して生活^{せいかつ}するために必要^{ひつよう}なことなのです。

たとえば、お父^{とう}さんが他^{ほか}の女^{おんな}の人^{ひと}と隠^{かく}れて交際^{こうさい}し、お母^{かあ}さんが他^{ほか}の男^{おとこ}の人^{ひと}と隠^{かく}れて交際^{こうさい}してはいけないということなのです。それは、お互^{たが}いを裏切^{うらぎ}ることになります。もし、このルールがなくなると、どうなるでしょう。お父^{とう}さんとお母^{かあ}さんの仲^{なか}が悪^{わる}くなり、子どもたちは両親^{りょうしん}を信頼^{しんらい}できなくなり、不安^{ふあん}でいっぱい家族^{かぞく}や社会^{しゃかい}になるのです。神^{かみ}さまは、家族^{かぞく}を大切^{たいせつ}にし、人^{ひと}と人^{ひと}がなかよく正^{ただ}しい関係^{かんけい}であるように、このルールを教^{おし}えてくださったのです。



◆お祈り

「家族^{かぞく}のルールが守^{まも}られて、神^{かみ}さまに喜^{よろこ}ばれる家族^{かぞく}・社会^{しゃかい}になりますように。」

(港南福音教会牧師 鵜田典子)

5月6日

テーマ：「盗んではならない」

聖書箇所：出エジプト記20章15節

◆今日のみことば

盗んではならない。

出エジプト記20章15節

◆メッセージ

ある時、コンビニに行くと3人の小さな子がお店の棚からお菓子を取って、ポケットに入れているのを見ました。それで「お店の物を取るのはどろぼうよ。やめなさい。」と話しかけると、3人はお店を出ていきました。ところが、すぐに3人はもどって来て、同じ事をしようとするので「やめないなら、お店の人に言いますよ」と言うと、逃げていきました。この3人は「神さまが盗んではならない」と、おっしゃっている事を知らないのです、そんなことをしてしまったのでしょう。ところが、ある日、教会学校の献金の時間に献金をするふりをして献金かごからお金を盗んでいる女の子を見ました。その子はお姉ちゃんのほうを見てニヤッと笑うとお姉ちゃんも同じ事をして二人でニヤッと笑いました。誰にも見つからないでうまくやった、と二人は思ったのでしょう。だれにも見つからないと思っても、神さまはごぞんじですよ。神さまは本当にかっかりしてしまいます。だってわたしたちが幸せになるために「盗んではいけないよ」とおっしゃったのです。

もちろん、あなたは、他の人の物を取ったりした事はないでしょう。でもお家にあるものだったら、だまってもらっても「どろぼう」じゃない、と思いませんか。またお友だちがかしてくれしたものを、ずっと返さないでいるという事はないでしょうか。だれにも迷惑をかけていないからいいんだと思うかもしれませんが、自分の物でないものをとるのは、やはり「盗み」です。もし今、神さまに「ごめんなさい」と言わなくちゃいけないと思ったら、すぐに神さまにお祈りしましょう。そしてもし、お友だちが他の人のものをつちやおうと言ったら勇気を出して「そんな事はできないよ。神さまが盗んではいけないと言っているからね」と言きましょう。



◆お祈り

「他の人の物を取る事が、とっても悪い事だとわかりました。けっしてそんな事をしないように守ってください。」

(日立福音キリスト教会伝道師 郷津正子)

5月7日

テーマ：「^{いつわ}偽ってはならない」

聖書箇所：出^{しゅつ}エジプト記^き20章^{しょう}16節^{せつ}

◆今日のみことば

あなたの隣人^{となりびと}に対し、偽^{いつわ}りの証言^{しょうげん}をしてはならない。

出エジプト記^{しゅつ}20章^き16節^{しょう}16節^{せつ}

◆メッセージ

私たちはどんな時にうそを言うのでしょうか？これまで自分は嘘をついたことはないと言う人はいないはずです。みんな、うそをついてしまうのです。うそは、本当のことを隠して、本当ではない事を、本当だと言ってしまう事です。

では、どんな時にうそをついてしまいますか。本当のことを言えないと思った時。本当のことは言えないけど自分の事を守りたい時。自分を大きく見せたい時。私たちはうそをついてしまいます。私たちは、本当の自分を出せない、見せられないと思う時にうそをついてしまうのです。

神さまは言いました。「わたしがあなたを救った神さまだから、『うそをついてはいけない』という命令を守りなさい」と。同じ出エジプト記で神さまは、うそをついて、本当は悪い事をしていない人のことを悪者にしてはいけなさと教えられました。私たちがうそをつく時に、誰かを傷つけてしまうのです。

一番いけないうそは、神さまの前で本当の自分を隠してしまう事です。神さまは何でも知っているのに、その神さまから自分を隠そうとしてしまうことはありませんか。その事を神さまは悲しまれます。

神さまは、うそをつかない生き方もあるのだと、私たちに招いてくださっているのです。互いにうそをつかない。人を傷つけない生き方があると教えてくださっています。

自分がうそをつかないように。友だちがうそをつかないでも生きられる世界を造るために、神さまは私たちに救いを与えてくださったのです。うそをつかないで生きられたイエスさまのようになれるように。私たちの周りの人も、そのように生きられるようにお祈りしていきましょう。

◆お祈り

「今日も一日、神様の前から隠れる事がないように、神さまを喜び、信頼して生きられますように。」



(世田谷中央教会伝道師 安藤友祥)

5月8日

テーマ：「^{むさぼ}貪ってはならない」

聖書箇所：^{しゅつ}出エジプト記^き20章^{しょう}17節^{せつ}

◆今日のみことば

あなたの^{となりびと}隣人の^{いえ}家を^ほ欲しがってはならない。すなわち^{となりびと}隣人の^{つま}妻、あるいは、その^{おとこ}男
^{どれい}奴隷、^{おんなどれい}女奴隷、^{うし}牛、^{ろば}ろば、すべてあなたの^{となりびと}隣人の^ほものを、^ほ欲しがってはならない。
^{しゅつ}出エジプト記^き20章^{しょう}17節^{せつ}

◆メッセージ

^{わたし}私^{にんげん}たち人間を造られた^{つか}神さまは、^{かみ}十(とお)の^{いまし}戒め、^{じっかい}十戒を^{わたし}私^{あた}たちにお与えになりました。
^{じゅうばんめ}その十番目の^{いまし}戒めが、「^ほ欲しがってはならない」です。^{なに}何を^ほ欲しがってはならないのでしょうか。
それは「あなたの^{とな}隣りの^{いえ}家の^{ひと}人のものすべて」です。^{ちか}近ごろでは、^{わたし}私^{とな}たちの^{きんじょ}隣り近所の^{ひと}人と^{した}親し
く^{すく}おつきあいが^{わたし}少なくなってしまう、^{わたし}私^{とな}たちは^{いえ}隣りの^{ひと}家の^も人が^もなにを^も持っているかなん
てほとんど^し知りません。でも、^もゲームや^もケイタイや^もスマホ、^もそれに^もいろいろな^もおもちゃや^も持ち物な
どを^{とも}お友だちが^も持っていて^{じぶん}自分は^も持っていないと^ほ欲しくなったことはありませんか。

^{むかし}昔、あなたの^{とう}お父さんや^{かあ}お母さん、その^{まえ}前の^こおじいさんや^{ころ}おばあさんが^こまだ^こ子ども^{ころ}だった頃、
^{にほん}日本は^{となり}隣^{くにぐに}の国々が^も持っている^ほものを^ほ欲しがって、^{くにぐに}アジアの^{くにぐに}国々や^{くにぐに}アメリカ、^{くにぐに}ヨーロッパの^{くにぐに}国々と
^{せんそう}戦争を^ましました。そして^ま負けて、^た食べ物や^{もの}着る物、^き住む^{もの}家などを^すなくし、^い苦しく^{くる}つらい^{けいけん}経験を
しました。

^{とう}お父さんや^{かあ}お母さんや^{にほんじゅう}日本中の^{ひとびと}人々が^{ひとびと}そこ^{ひとびと}から^{ひとびと}がんばって
^{はたら}働いて、^た食べ物や^{もの}着る物、^す住む^{いえ}家や^{いえ}家の中で^な必要な^{ひつよう}もの、^なそれ
^{でんしゃ}に電車や^{しんかんせん}新幹線、^{ひこうき}飛行機や^{うちゅう}宇宙^{つく}ロケットなどを^{つく}作ってきたお^{つか}か
^{いま}げで、^{いま}今は^{ゆた}こうして^{せいかつ}豊かな^{せいかつ}生活ができる^{せいかつ}ようになりました。と
^{ひとびと}ころが、^{ひとびと}人々は^{まんぞく}それでも^{まんぞく}満足^ほしない^ほで「^ほもっとも^ほっと^ほ欲しいもの
^いがある」と^い言^いって、^ほ欲しがり^ほすぎて、^ほケンカ^ほして^ほでも、^ほだまして^ほで
^{ぬす}も、^{ぬす}盗^{じぶん}んで^{じぶん}でも^{よくば}自分の^{よくば}ものに^{よくば}したいと^{よくば}欲張^{よくば}っています。

^{かみ}神さまが「^ほ欲しがってはならない」と^{めい}お命^{めい}じになったのは、
^{いま}「今、^{かみ}神さま^{あた}から^{あた}与えられている^{まんぞく}もので^{まんぞく}満足^いして^い暮^いらしなさい」と^いいう^い意味^いです。そう^いすれば、
^{あらそ}争^{ぬす}いや^{せんそう}盗^{せんそう}みや^{せんそう}戦争^{ひと}が^{ひと}なくなり、^{ひと}人と^{なかよ}とが^{なかよ}仲^{しあわ}良く^く幸^{かみ}せ^{かみ}に^{かみ}暮^{わたし}ら^{にんげん}せ^{にんげん}ます。神^{かみ}さまは^{わたし}私^{にんげん}たち人間に
そういう^い生き^{かた}方を^{のぞ}望^{のぞ}んで^{のぞ}いら^{のぞ}っしゃる^{のぞ}のです。

◆お祈り

「^{かみ}神さまが^{あた}与えて^{あた}くださっている^{かんしゃ}ものを、^{かんしゃ}感謝^{まんぞく}して、^い満足^いして、^い生きて^いることが^いできます^いよう
に。」



(谷原キリスト教会牧師 大嶋義隆)

5月9日

テーマ：「感動した者」

聖書箇所：出エジプト記35章21節

◆今日のみことば

感動した者と、心から進んでする者とはみな、会見の天幕の仕事のため、また、すべての作業のため、また、聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。

出エジプト記35章21節

◆メッセージ

神さまの民だったイスラエルの人たちがとても長い間エジプトに住んでいた時の事です。最初はエジプト人と仲良くしていたのですが、やがて見ていられないくらい、ひどい事をされました。そこで神さまはモーセをつかわしてイスラエルの人たちをエジプトから助けました。長い旅の間も、みんなが死んでしまうのではないかと思った時が何度もありました。けれども、神さまはいつも守ってくださいました。その旅の中、モーセの勧めで人々は神さまの住む所（これを『幕屋』と言います）をつくる事になりました。とてもひどいところから神さまが助けくださったことがわ



かっていたので、みんなはうれしくてうれしくて、心に感動して喜び、いやいやながらでなく自分の持っているもの、それも残りものではなくて、特に自分が大事にしているもの、金や銀やすてきな糸や宝石や飾りなどを、惜しまないで幕屋を作るために神さまにお献げしました。しかもただ献げただけではなく、一人一人、自分が出来る精一杯の仕事をして、喜んで神さまのために幕屋をつくりました。

私たちはみんな神さまに逆らう心「罪」をもっています。もしそのままいたら救われず、滅んでしまうのです。残念ながら、罪は私たちがどんなに努力しても、自分の力ではどうする事もできません。とてもひどいところにいました。私たちが愛してくださっている神さまは、神さまのひとり子イエス・キリストをおつかわしになり、十字架にかけ、私たちが罪から救い出してくださいました。その証拠に、三日後によみがえって罪の一番大きな呪いだった「死」に勝ってくださいました。だから、私たちが救われた事を喜んで、神さまのために献金したり、奉仕したりしましょう。いやいやながらでなく、喜んで自分から進んでする心を、神さまはととても喜んでくださるのです。

◆お祈り

「神さま。私を救ってください、感謝いたします。神さまを喜ぶ（感動出来る）心を与えてください。また精一杯、喜んで神さまのご奉仕が出来るようにしてください。」

（磯原キリスト福音教会牧師 生亀俊一）

5月10日

テーマ：「火を消してはならない」

聖書箇所：レビ記6章8節～13節

◆今日のみことば

“火は絶えず祭壇の上で燃え続けさせなければならない。消してはならない。”

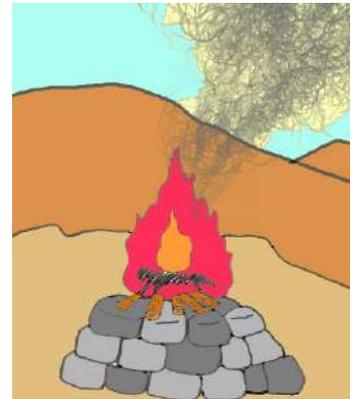
レビ記6章13節

◆メッセージ

神さまにお祈りするとき、皆さんはいろいろなことをお願いするでしょう。神さまにお願いしたいことは毎日たくさんあります。神さまはそれを聞いて、いつも一番良い答をくださいます。

でも、神さまが望んでおられることはそれだけではありません。神さまは、いつも私たちももっとも近づいて、仲良くなりたいたと望んでおられます。

神さまに近づくにはどうすればよいでしょうか。昔イスラエルの人たちは、動物のいけにえをささげて、神さまに近づこうとしました。動物を全部すっかり火で燃やしたのが、ここに出て来る「全焼のいけにえ」です。それは、自分を全部すっかり神さまにささげてしまう心を表していました。



今は、私たちの救いのためにイエスさまが十字架にかかってくさったので、もう動物のいけにえはいらなくなりました。イエスさまのおかげで、私たちは、いつでも神さまに近づくことができるようになったのです。

あなたは神さまに近づいて、神さまと仲良く毎日を過ごしたいとおもいますか。それが、神さまがあなたに望んでおられることです。では、あなたはいつ、神さまに近づくでしょうか。



12節で聖書は、「朝ごとに」そうするように、と教えています。そして神さまにささげる火を「消してはいけない」と、教えています。私たちでいえば、毎朝イエスさまへの信仰をもって神さまに近づき、神さまと仲良く一緒に一日をスタートすることが大切で、それをやめてはいけないということです。そのように始める一日は、スタートだけでなく一日中が、神さまと一緒に歩む喜びに満たされた日となります。毎日の初めに、神さまに近づいて祈ることが、神さまが望んでおられる通りの一日を過ごす秘訣です。

◆お祈り

「毎朝、神さまに近づき、自分を捧げて歩めますよう、助けてください。」

(東京基督教学園派遣教師牧師 広瀬 薫)

5月11日

テーマ：「^{せい}なる^{もの}者とならなければ」

聖書箇所：^きレビ記^{しょう}19章^{せつ}2節

◆今日のみことば

イスラエル人の全会衆に告げて言え。あなたがたの神、主であるわたしが聖であるから、あなたがたも^{せい}なる^{もの}者とならなければならない。レビ記19章2節

◆メッセージ

みなさんは、きたないものが好きですか、きれいなものが好きですか。もちろん、きれいなものですね。神さまも同じです。神さまはいつもきれいな、きよいものが好きです。レビ記19章2節には、神が聖なるお方であることと、ご自分の民が聖なる者にならなければならないと、書いています。

みなさんは、どんな人がいちばん^{しあわ}幸^{おも}せだと思えますか。罪ある人に用いられる人でしょうか、罪のない聖なる神さまに用いられる人でしょうか。もちろん、神さまに^{とうと}尊く用いられる人でしょう。

では、聖なる神さまはどんな人を^{とうと}尊く用いてくださると思えますか。罪のない人でしょうか。「罪のない人は一人もいない」と聖書は教えています。神さまは、罪があってもイ

エス・キリストの十字架の愛を心から信じて、自分の罪を悔い改めて、その罪から離れ、神さま中心に生活をしている人の罪を赦してください。そして、そのような人を聖なる者と認め、その人をありのまま受け入れ、神さまが決められたときに、^{とうと}尊く用いてくださいます。

「大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。また、ある物は^{とうと}尊いことに、ある物は卑しいことに用います。ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は^{とうと}尊いことに使わされる器となります。すなわち、聖められるもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。」(第2テモテへの手紙2章20節～21節)

このみことばのように、自分自身をきよめて、きたない罪から離れることが、主人である神さまに^{とうと}尊く用いられる秘訣です。罪から離れ、きよく生きようとするとき、苦しみと痛みもあるでしょう。自分自身との闘いと葛藤もあるでしょう。試練と迫害もあるかも知りません。しかし、聖なる者になることは、神さまの切なる願いであり、命令であり、みこころでもあります。神さまの民である私たちがきよく生きることは、聖なる神さまに似ているしるしとなります。

◆お祈り

「神さま、キリストの愛の中に自分自身を保ち、聖霊の力によって、神さまに用いられる良いしもべになりますように私をあわれんでください。」

(新札幌聖書教会牧師 朴 永基)



5月12日

テーマ：「カナンの偵察」

聖書箇所：民数記13章17節～14章9節

◆今日のみことば

ただ、主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。彼らの守りは、彼らから取り去られている。しかし主が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れてはならない。

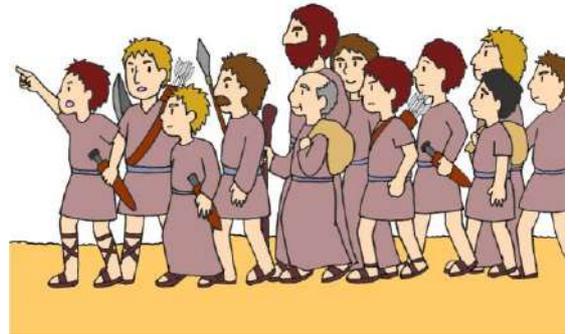
民数記14章9節

◆メッセージ

スポーツの試合や何かの試合などに出たことがありますか？自分と戦う相手が、元チャンピオンだったりしたらどうですか。初めから勝てないと、あきらめてしまいますか。

モーセに連れられてエジプトの国から逃げて来たイスラエルの人たちは、何日も何日も旅を続けました。そして、神さまがくださるという約束の地カナンの

の前までやってきました。そこで神さまは、モーセに「カナンの地を探ってください」といわれ、モーセは代表者12人を選び、土地を見に行かせました。



40日たつて、彼らが偵察から帰ってきました。もどってきた人たちは、「とってもよい地でした。」と報告しました。「2人でかついで、やっと持てるくらいのぶどうもありました。けれど、そこに住んでいる人たちは、自分たちよりずっとずっと背も高く、強い人のように見えました。だから、あの人たちのところへは、攻めてはいけません。あの人たちは、強そうだから。」と、10人は言いました。でも、カレブさんとヨシュアさんだけは、

「わたしたちは、ぜひその土地に行きましょう。神さまがわたしたちとともにおられますから。彼らを恐れてはいけません。」と言ってイスラエルの人々を励ました。

自分の思いや考えだけで「もう、だめだ。勝てない。勉強もわからない。合格点もとれない。出来ない。無理だ。」と最初からあきらめてしまうことがあるのではないのでしょうか。

神さまは、そんなあなたといっしょにいてくださり、励ましてくださり、勝つ力、やりとげる力をくださるお方なのです。ですから、あなたも勇気をだしてチャレンジしてみましよう。

◆お祈り

「すぐにあきらめてしまう弱い心を、神さまのみことばで強くしていただき、なんでもあきらめないで、できますように。」

(水戸福音キリスト教会牧師 小林 望)

5月13日

テーマ：「メリバの水」^{みず}

聖書箇所：民数記^{みんすうき}20章^{しょう}1節^{せつ}～13節^{せつ}

◆今日のみことば

これがメリバの水、イスラエル人が主と争ったことによるもので、主がこれによってご自身を、聖なる者として示されたのである。^{みんすうき}民数記^{しょう}20章^{せつ}13節

◆メッセージ

神さまを心から信じることができますか？神さまを信じるというのは、神さまの助けを待つことや神さまのやり方に従うことなのです。「神さまを信じます」と言いながら、実際の生活の中で従えないことがあるかもしれません。神さまに従うのではなく、神さまを従わせるような気持ちになることがあるかもしれません。神さまが目に見えるかたちで助けてくれること、導いてくださることを学びましょう。

エジプトを脱出したイスラエル人は、いろいろな問題を経験しました。あるとき、飲む水がなくなっていました。近くに川や池もない荒野で、みんなはとても困ってしまいました。そこでリーダーであるモーセに文句を言い始めたのです。神さまを信じるとは、神さまの助けを待つことです。困ったことがおこると、問題を誰かのせいにして、ケンカになったことはありませんか？神さまを信じてお祈りをし、神さまの助けを待ち望みたいですね。

ところで、文句を言われたモーセは神さまに祈って相談しました。すると神さまは、必要な水を与えると約束して

くださいました。岩に命じるだけで水が与えられると聞いて、モーセは少し疑いの

心を持ちました。岩に命じるだけで、本当に大丈夫？そこで命じるだけでなく、杖で岩をたたいて水を出すことにしたのです。神さまは、命じられたとおりに

しなかったモーセを残念に思いました。

神さまを信じるとは、神さまのやり方に従うことです。自分がやりたいように行動したいと思ったことはありませんか？神さまが導いてくださ

ることに、いつでも信頼していく者となりましょう。



◆お祈り

「神さま、あなたことをいつも信じ、信頼できるようにしてください。いつでも神さまに祈り、神さまに従うことができるようにしてください。」

(土浦めぐみ教会牧師 井上 聡)

5月14日

テーマ：「青銅の蛇」

聖書箇所：民数記21章

◆今日のみことば

すると、主はモーセに仰せられた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる。」

民数記21章8節

◆メッセージ

みんなは、せっかくお母さんやお父さんが一生懸命がんばってしてくれたことを、たいしたことじゃない、と思ってしまったことがあるでしょうか？もらったプレゼントに「これじゃない！違うものがほしい！」と言ったり、「つまんない！」と言ってみたり。同じように、神さまに対しても、私たちは簡単に文句を言ってしまうがちなものです。

イスラエルの人たちもそうでした。それまでの旅の途中で、なんども奇蹟で神さまにたすけられてきましたが、苦しい旅がつづくうちに、みんな疲れてきました。そして神さまずっと助けてくださったことも忘れ、感謝を忘れ、不満がころにいっぱいになって、がまんができなくなっていました。今まで一生懸命導いてくれたモーセさんにさからって、文句を言



いました。21章5節を読んでみましょう。なんと、神さまがあたえてくださったマナのことまで「みじめな食物」と言ってバカにしました。神さまは、そんなイスラエルの人たちに燃える蛇を送

られました。神さまのさばきです。蛇にかみつかれた人たちはどんどん死んでしまいました。これにあわてた人たちはモーセさんのところに行き、「たすけてください！」ともとめました。モーセさんはこの人たちのためにお祈りしました。神さまは、すぐにそのモーセさんの祈りにこたえて、救いを用意してくださいました。青銅の蛇を見上げるだけで救われるようにしてくださいました。



私たちも、お友達とくらべ、ほかのものがよく見えたときなど

は、神さまがあたえてくださっているものを感謝できなくなるときがあります。そして神さまに文句を言ったり、神さまとの約束をやぶってしまう時があります。神さまはその罪をそのまま放っておかれませんか。そのままでは滅ぼされてしまう私たちのために、神さまは、イエスさまを十字架にかけてくださいました。だれのいのちもほろびてほしくない、イエスさまを身代わりとして、十字架にかけてくださったのです。イスラエルの人たちが青銅の蛇を仰いで救われたように、私たちは、イエスさまを信仰をもって見上げるだけで、罪から救われます。この救いを喜んで感謝して歩みましょう。

◆お祈り

「家族やお友達、すべてのものをありがとうございます。どんなときもイエスさまを見上げて、あゆめますように。」

(土浦めぐみ教会伝道師 新井愛希)

5月15日

テーマ：「聞きなさい」

聖書箇所：申命記6章1節～9節

◆今日のみことば

心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。
申命記6章5節

◆メッセージ

神さまは、約束してくださったカナンちの地にイスラエルの人々をみちびいてくださいます。もう目の前にその地が見えています。そこはすばらしい地です。作物はたわわに実り、家畜も元気にいっぱいふに増える豊かな地です。神さまは指導者モーセを通して、とても大事なことを教えてくださいました。しあわせになるため、大きな国となって神さまの祝福を全世界に伝えることができるために。それは、あなたの神、主を愛しなさい、ということでした。

愛するお友だち、あなたが一番愛しているのは何ですか？ゲームソフト？お金？良い成績？お友だち？神さまはイエス・キリストを人として地上に送ってくださり、私たちのすべての罪をゆるすため、身代わりとしてその罪の罰を受けさせてくださいました。それは十字架の上で死ぬことでした。そしてイエスさまを三日目に死者の中からよみがえらせてくださいました。神さまは、あなたを本当に心から愛してくださっているのです。立派な人のためではなく、罪をいっぱい持っている人のために死んでくださったのです。ここに本当の愛があるのです。この愛はけっしてあなたを裏切りません。ですから、イエスさまを信じることによって、罪ゆるされ、永遠のいのちを持ち、神さまの愛を受けているのです。このようなすばらしい神さまを愛して生きると、しあわせになるのです。



神さまを愛するとは、神さまのみことばをよく聞くこと、そしてその言われるように生きることだと教えてくださいました。「聞いて、守り行いなさい。そうすれば、あなたはしあわせになります。」それはその人の心の中に神さまの愛を受け入れることです。心の底から、知恵を尽くして、力の限り、神さまを愛して生きるなら、だれでもしあわせになるのです。心の中に神さまの愛があるからです。

◆お祈り

「わたしを本当に愛してくださる神さま、あなたを心から愛します。みことばを毎日よく聞いて、守るしあわせな人にしてください。」

(自由が丘めぐみ教会牧師 阿部起士)



5月16日

テーマ：「雄々しくあれ、強くあれ」

聖書箇所：ヨシュア記1章

◆今日のみことば

わたしはあなたに命じたのではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。

ヨシュア記1章9節

◆メッセージ

ヨシュアさんの名前は「主は救い」という意味で、新約聖書のイエスさまと同じ意味の名前です。ヨシュアさんはイスラエルの民の指導者であり、預言者であったモーセさんの次に指導者として神さまが選んだ人です。ヨシュアさんのお仕事は神さまの約束されたカナンの地にイスラエルの民を連れて行き、住むようにすることでした。このお仕事には、とても大変な戦いもあります。しかし神さまは必ず、このカナンの地を与えてくださると約束してくださいました。ヨシュアさんにとっては、カナンの人々はとても強く怖い人々でした。それで、神さまはヨシュアさんに励ましの言葉をくださいました。その言葉が「わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」でした。



私たちは、神さまを信じていることを周りのお友達に、なかなか話せません。それは恐れがあるからです。そんな時、このみ言葉が励ましてくれます。神さまが共にいて、必ず守って、助けて、保護して、慰めて、力づけてくれます。そのために、神さまがヨシュアさんに言われたことがあります。

「律法の書（聖書）を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。・・・それを守り行なうためである。」（ヨシュア1：8）それは私たちも聖書を読み、お祈りして、そのみ言葉に従うことです。「この聖書こそ、キリスト・イエスを信じることによって救われるための知恵を与えてくれたのです。」（第2テモテ3：15）私たちはイエスさまによって救われました。ただ雄々しく強く、イエスさまのみ言葉（聖書）に従っていきましょう。

◆お祈り

「私たちの毎日の生活に、主が共にいることを信じ、なにごとにも恐れなくて雄々しく強く、そしてみ言葉に従うことができますように。」

（藤代聖書教会牧師 唐沢 伝）

5月17日

テーマ：「ヨルダン川を渡る」

聖書箇所：ヨシュア記3章1節～17節

◆今日のみことば

見よ。全地の主の契約の箱が、あなたがたの先頭に立って、ヨルダン川を渡ろうとしている。
ヨシュア記3章11節

◆メッセージ

イスラエルの民は、ヨシュアに導かれ、ヨルダン川を渡ろうとしていました。ヨルダン川は、ちょうど水が多い季節でした。

ヨシュアは、その時、イスラエルの民に「祭司たちが神様の契約の箱をかつぎ、先頭に立って渡る。あなたがたは、その後ろを進まなければならない。祭司たちの足の裏がヨルダン川の水の中にひたると、水はせきとめられ、その中をあなたがたは渡ることができる。」と告げました。「神様の契約の箱」は、神様がともにおられることを表していました。



いよいよ寝泊りしていたところを立ち、ヨルダン川を渡ります。水は、ごうごうと勢いよく流れています。しかし、神様の契約の箱をかつぐ祭司たちの足がヨルダン川の水にひたったその時、勢いよく流れていた水は完全にせき止められ、祭司たちがヨルダン川の真中に立つうちに、イスラエルの民すべてがヨルダン川を渡り終えることができたのです。

今日も、私たちの目の前には、ヨルダン川が流れているのではないのでしょうか。ある人は、学校や会社に行き、友だちや人と顔を合わせることに怖いということがあるかもしれません。また、大切な家族を失ったり、自分自身が病気になったりすることもあります。そして、神様の素晴らしさを証するのに恐れをいだくこともあります。でも、神様は、今日の一日も、私たちの先に立って歩んでくださいます。私たちはひとりではありません。苦しみの真中で神様はともにおいでくださるのです。

今日一日、神様が先に立って私たちを導き、ともにあってくださることを信じ、神様を恐れ、信頼し、歩みましょう。そして、私たちの歩みを通し、神様の素晴らしさを現わしていきましょう。

◆お祈り

「神様、あなたがともにおいでくださることを感謝します。あなたに信頼し、あなたの素晴らしさを現わすことができるよう助けてください。」

(守谷聖書教会牧師 鈴木洋宣)

5月18日

テーマ：「エリコ」

聖書箇所：ヨシュア記5章13節～6章20節

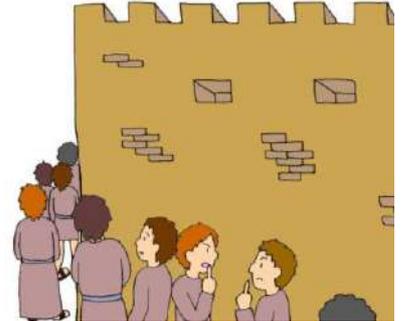
◆今日のみことば

あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。

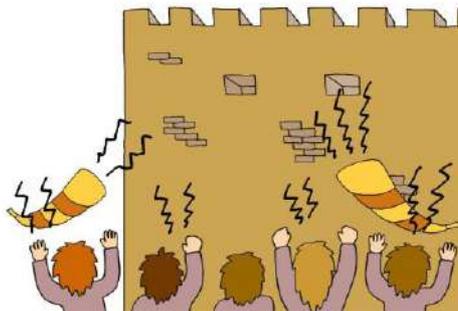
ヨシュア記5章15節

◆メッセージ

ヨシュアさんは、前にみんなといっしょにヨルダン川をわたりました。その前に見えたのがエリコの町の高い壁でした。町のまわりには高い壁がありました。そこでヨシュアさんは、どのようにしたらエリコの町の人たちに勝てるのかを考えました。



その時、神さまがおくった人があらわれました。ヨシュアさんは、



この人が自分たちの味方であるのか敵であるのかをたずねました。そうすると、その人は、「私は、神さまに従う人たちを正しく従わせることができる人である。」こたえました。そしてヨシュアさんにも、「あなたの足のはきものを脱げ」といわれました。それは、すべてのことを神さまにまかせて従いなさいということです。

このあと、神さまは、ヨシュアさんにエリコの町の人たちと戦う方法をおしえました。一日に一回みんなで壁の周りをまわるのです。六日の間、一日一回まわるのです。七日目には、七回まわって最後に角笛を長く吹き鳴らすとみんなで大きな声を出すのです。

ヨシュアさんとヨシュアさんにしたがう人たちはそのように行ないました。するとどうでしょうか。高いエリコの壁はくずれたのです。イスラエルの人たちは、エリコの町の人たちに勝ちました。ヨシュアさんとイスラエルの人たちが、神さまに従ったので勝つことができたのです。

日曜日に神さまを礼拝しようとする時、いろいろなさまたげがあります。いつも神さまに心から従っていけるようにお祈りしましょう。



◆お祈り

「どんなときも、神さまに従っていけるように助けてください。」

(総和キリスト教会牧師 前山正夫)

5月19日

テーマ：「^{しんこう}信仰の^{かくにん}確認」

聖書箇所：ヨシュア記^き24章^{しょう}11節^{せつ}～28節^{せつ}

◆今日のみことば

もしも【主】に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、【主】に仕える。」
ヨシュア記24章15節

◆メッセージ

ヨシュアさんはモーセさんの後を継いで、イスラエルの人々をヨルダン川の向こう岸まで導きました。そして、最後の大事なお仕事に取りかかります。それはイスラエルの人々に、ここまで助けてくださった神様の素晴らしさを思い出させ、神様に従おうという思いをしっかりと持ってもらうことでした。

「奴隷だった自分たちをエジプトから救い出し、困ったことがあるたびに、助けてくださった神様の恵みを思い出しなさい」とヨシュアさんは言います。あなたは、神様に助けていただいたり、守っていただいたことを思い出せますか？「神様は、僕に、私に、こんなにたくさんのおいしいことをしてくださったんだ」とすぐに思い出して言えたらステキです。



そしてヨシュアさんは、「まわりの人たちがしている偶像礼拝（本当の神様以外のものに、心を向けてしまうこと）をしないように気をつけなさい」と言います。悪魔は「礼拝よりゲームの方が面白いよ。聖書より漫画の方が楽しいよ」と私たちをさそいます。悪魔のさそいに負けて、私を愛している神様を悲しませないよう気をつけましょう。



そしてヨシュアさんはこう言います。「私と私の家とは、主に仕える」

私たちも「私と私の家族は神様を信じ従います」と神様におこたえしましょう。そのあなたの決心を、神様はほんとうに喜んでくださいます。

◆お祈り

「ヨシュアさんのように、私と私の家族がずっと神様に従っていけますように」

(取手聖書教会牧師 山田洋一)

5月20日

テーマ：「ギデオンの召命」

聖書箇所：士師記6章1節～40節

◆今日のみことば

すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」

士師記6章14節

◆メッセージ

もしも神様から「わたしのためにここへ行ってこれをしてください。また、家族やお友だちのためにこれをしてください」などと頼まれたらどうしますか。自分にはそんな力がない、全然できるなんて思えないとき、何と答えますか？

イスラエルの国は、ある時、ミデヤンという外国の人たちに攻められて、みんなで一生懸命に作った食べ物もみんな取られてしまいました。大変困って、神様に助けを求めました。そうすると



神様の使いからギデオンという人に声がかかりました。「勇士よ。主があなたといっしょにおられる。」でも、ギデオンは信じられませんでした。「エジプトからイスラエル人を救い出した主が、もしも今ここにおられるなら、こんなひどいことにはならないはずです。」しかし、神様は言われました。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」ギデオンは答

えました。「こんな臆病な私にどうしてそんなことができるのでしょうか。私の仲間は少なく、私は弱いし、家族の中で一番年下で、若いのですから。」本当に心細かったギデオンでしたが、聞

いた神様のことが本物だったことがはっきりとわかったので、神様に従うことを心に決めました。そしてまず、その時に拝んでいた偽物の神様の祭壇を取り壊して、本物の神様だけの祭壇をつくって拝みました。それから、イスラエルのために戦おうと立ち上がったのです。

神さまから、命じられていること、自分にはそんな力がない、全然できるなんて思えないときでも、神さまが共にいてくださる約束を信頼して、従いましょう。



◆お祈り

「神様から命令を受けたとき、自分にはどうしてもできないと思ったときでも、神様がともにいてくださって、私にいただいた力で、勇気をもってできるようにしてください。」

(古河教会牧師 長谷川望)

5月21日

テーマ：「300人の勇士と勝利」

聖書箇所：士師記7章1節～25節

◆今日のみことば

私と、私といっしょにいる者がみな、角笛を吹いたなら、あなたがたもまた、全陣營の回りで角笛を吹き鳴らし、「主のためだ。ギデオンのためだ」と言わなければならない。

士師記7章18節

◆メッセージ

ギデオンさんによって集められたイスラエルの兵士は3万2千人でした。それに対して、ミデヤン人は13万5千人もの大軍でした。それなのに、神さまはイスラエルの兵士は多すぎると言われました。それは、多くの民で勝つと、神さまに向かって自分たちの力を誇るようになるからです。神さまは、まず敵の大軍に恐れる者は帰らせて、1万人にしました。そのあと、泉での水の飲み方を見て、犬のように舌で水をなめる者、ひぎをついて飲む者は自分の家に帰らせました。手で水をすくい、口に手をあてて水をなめた注意深い者だけをより分けられました。2回のテストで最後はたったの300人になってしまいました。

300人の勇士は夜、全員が手に角笛と、中にたいまつが入った空のツボを持って、3つの隊に分かれて敵の陣營に行きました。300人が一斉に角笛を吹き鳴らし、ツボを割って、たいまつを手にかざして、「主のためだ、ギデオンのためだ」「主の剣だ、ギデオンの剣だ」と大声で叫びました。敵の兵士は大きな音と光とで、おろおろして逃げ出し、味方同士で切り合うことになりました。こうして、イスラエル人はミデヤンの大軍を打ち破ったのです。



この勝利は、神さまが計画された勝利でした。神さまが勇気と知恵を与えてくださり、ギデオンをはじめ神さまに

信頼を置く兵士が用いられて神さまのために戦ったので勝つことができたのです。この勝利は、人数が少なくても、いえ、人数が少ないからこそ、神さまの栄光を現わすものでした。

日本の国では、人数の少ないクリスチャンたち・・・でも、神さまの栄光を現わすことができます。用いられるように祈りましょう。

◆お祈り

「私たちも、神さまのために戦うことがあったら、その戦いに用いられるようにしてください。」

(古河教会伝道師 長谷川きみえ)

5月22日

テーマ：「ナオミとルツ」

聖書箇所：ルツ記1章15節～22節

◆今日のみことば

あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。

ルツ記1章16節

◆メッセージ

ここで家庭礼拝をしている皆さんはお父さんやお母さんがクリスチャンであるという人が多いと思います。クリスチャンホームに生まれたことはとても幸せなことです。そして神さまは、みんながお父さんお母さんの信じているまことの神さまを信じますと告白する日を待っていてくださいます。

ナオミさんの家族は神さまを信じるクリスチャンホームでした。ベツレヘムというところで暮らしていましたが、この地に食べるものがなくなってしまい、よその国に引っ越しをすることになりました。ご主人が亡くなり、ふたりの息子さんはお嫁さんを



もらいましたが、息子さんたちも死んでしまい、ナオミさんは故郷のベツレヘムに帰ることにしました。ナオミさんはふたりのお嫁さんが幸せになることを願ってひとりで帰ろうと思いましたが、



お嫁さんのルツさんは「私はナオミさんと一緒にベツレヘムに住んで生活したいです。ナオミさんの信じる神さまを私の神さまとしたいです。」と言いました。ルツさんは、ナオミさんがご主人や息子たちが先に死んでしまったり、いろいろ大変なことが起こったりしても、神さまを見上げて神さまを信じて続けていることをずっと近くで見っていました。辛いことや悲しいことがあると悩んだり迷ったりするのが人間です。しかし、信頼できる神さまが

いるならば安心です。聖書の神さまは、私たちのすべてを知っておられる全能の神さまであり、愛の神さまです。

この神さまへのナオミさんの信仰を見て、ルツさんもナオミさんの信じているまことの神さまを知りました。そしてまことの神さまを信じますと告白しました。同じ神さまを信じることで、ふたりの関係はさらに神さまの愛で満たされていきました。この後一緒にベツレヘムに帰っていったふたりに、神さまは祝福をお与えになります。(時間がある時にぜひルツ記を最後まで読んでみてください。)

皆さんも、家族みんなと同じ神を信じることができるようにお祈りしていきましょう。

◆お祈り

「お父さんやお母さんの信じているまことの神さまを、僕も私も信じて従いたいです。」

(平和台恵教会伝道師 奥山恵美)

5月23日

テーマ：「サムエルの母ハンナ」

聖書箇所：Iサムエル記1章1節～20節

◆今日のみことば

そして誓願を立てて言った。「万軍の主よ。もし、あなたが、はしための悩みを顧みて、私を心に留め、このはしためを忘れず、このはしために男の子を授けてくださいますなら、私はその子の一生を主にささげします。そして、その子の頭に、かみそりを当てません。」

Iサムエル記1章11節

◆メッセージ

お祈りしている少年サムエルさんの絵をみたことがありますか。このサムエルさんのお母さんの名前はハンナさん、お父さんの名前はエルカナさんです。エルカナさんにはその頃の習慣で、もう一人の奥さんペニンナさんがいました。ペニンナさんには子どもがいましたが、ハンナさんには子どもがいませんでした。子どものいないハンナさんはいつもペニンナさんにいじめられ、悲しい暗い心で過ごしていたのです。エルカナさんは家族をつれて、一年に一度、シロの聖所で礼拝をささげていました。その度ごとにペニンナさんは、子どもがいないことでひどくハンナさんを苦しめました。食事のものをとおりません。エルカナさんの愛の励ましのことばも届きません。

ハンナさんは神殿に入って長い間、神さまに泣きながら自分の心の悲しみを訴え続けました。「神さまは天と地すべてを造られたお方、偉大な力あるお方です。奇跡をなさるお方です。神さま、私に男の子を授けてください。私はその子の一生を神さまにおささげします。そして、その子の頭に、かみそりを当てません。」と祈りました。激しく泣いて祈るハンナさんに、祭司エリさんは、「安心して行きなさい。どうかイスラエルの神があなたの求める願いを聞きとどけられるように。」と答えます。ハンナさんは自分もっていた悩みや願いを全部神さまのもとに置きました。心から祈ったその祈りに神さまは答えてくださるとハンナさんは確信しました。暗い悲しい顔から明るい表情に変わりました。お食事もできました。



それから一年後、サムエルさんが生まれたのです。サムエル、その名前の意味は「神は聞き給う」という意味です。お母さんの祈りの中で与えられたサムエルさん。ハンナさんは神さまに約束したようにサムエルさんを神さまのためにささげました。サムエルさんは母ハンナさんの祈りの中で成長し、やがてイスラエルの歴史の中で神さまの大きな働きをしたのです。

あなたもご家族の愛の祈りの中にあります。感謝ですね。自分でも神さまに心を注いで祈りましょう。

◆お祈り

「すべてのことを神さまにお話し、信じてお任せできますように。あきらめないで祈りつづけることができますように。」

(支援教師 増田八重子)



5月24日

テーマ：「サムエルの祈り」

聖書箇所：Ⅰサムエル記3章1節～21節

◆今日のみことば

そのうちに主が来られ、そばに立って、これまでと同じように、「サムエル。サムエル」と呼ばれた。サムエルは、「お話しください。しもべは聞いております」と申し上げた。

Ⅰサムエル記3章10節

◆メッセージ

道端のお地蔵さんに毎日お供えをし、一生懸命にお祈りしている人を見かけました。熱心だと感心すると共に、聞いても、答えてくれないお地蔵さんに祈ることは本当に残念なことだと思いました。

私たちは神さまに祈ることが許されています。「絶えず祈りなさい。」(Ⅰテサロニケ5：17)と神さまは私たちをその恵みに招いてくださっているのです。しかし、私たちは祈ったら祈りっ放しにしてしまっていないでしょうか。「私は声をあげて、主に呼ばれる。すると、聖なる山から私に答えてくださる。」(詩篇3：4)と約束されているのにも関わらず、その答えを聞こうとしないのです。サムエルさんが子どもの頃、「主のことばはまれに(ほんの少し)しか」なかったと書かれています。それは当時のイスラエルの人々が主に願っていたとしても、聞こうとすることがなかったことを、そして主の言葉に従おうとしていなかったことが理由だと思います。

そのような時にサムエルさんをお呼ぶ、主の声が聞こえました。先生であるエリに導かれサムエルさんは「お話しください。しもべは聞いております」と答えるのです。祈りは会話だと言われますが、片方が話し続け、もう一方の話を聞かないならば会話にはなりません。願い事ばかりを神さまにお話するのではなく、御言葉を通して語りかけてくださる主に耳を傾けることができると、自分はこのように思っていたけれど、



神さまはこのように思っていたのだと祈りの答えの中で進むべき道を、選ぶべきものを教えていただけなのです。



神さまは私たちのことを誰よりも知り、また何でも出来るお方です。そのお方の前に、願い事ばかりをすることはもしかすると自分を神さまよりも高く、偉くしているのかもしれない。サムエルさんの祈りにありますように、しもべとして、心を低く、神さまの言葉を聞けるような祈りの会話をしていきましょう。

◆お祈り

「神さま。私たちの祈りを聞いてくださり、答えてくださることを感謝いたします。いつでもしもべの心を持って、あなたの言葉を待ち望むことができるようにしてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

5月25日

テーマ：「主は心を見る」

聖書箇所：Iサムエル記16章1節～13節

◆今日のみことば

しかし主はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」

Iサムエル記16章7節

◆メッセージ

我が家の二女は、二歳のとき、母親に「わたし、〇〇ちゃんのような、しわが二本の、ぱっちりおめめになりたいの」と言って困らせました。「あなたの目は一重まぶたで切れ長おめめで、とってもかわいいのよ」と説明しても納得しません。また、ある美人コンテストの優勝者が「私は背が高すぎ、鼻が高すぎるのが嫌いです」と自分のことを言っているのに驚いたことがあります。

私たちは、だれでも自分をより良く見せたい、自分が一番だと思いたいものです。でも本当は自信がなく、自分はダメだと思って、余計に強がって見せることがありますね。

実は、サウル王様もそうでした。彼は、自分が一番偉く、誰よりも強い王様だと、国中の人々に思わせるため立派なかんむりをかぶり、豪華なイスに座って命令しました。でも、その心は神さまから離れ、いつもイライラしていたのです。これでは神さまに仕える王様にはなれません。

そんな時、神さまは預言者サムエルに、サウル王様に代わって新しい

王様を立てるようお命じになりました。その言葉が「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」でした。

そして、少年ダビデが新しい王様として選ばれ、油注がれたのです。ダビデさんは敵と戦う武器を持っていたわけではありません。誰も見向きもしない、野原で羊の世話をする少年でした。でも、神さまを素直に信じ、神さまに信頼する心をしっかりと持っていたの

です。神さまは、そのダビデさんの心を見ていてくださいました。そして、神さまの御用のために用いてくださるのです。

神さまは、あなたと、あなたの心を見ていてくださいます。

◆お祈り

「神さま、あなたは私たちの心を見ておられます。私たちが人の目や、人の言葉を恐れなくて、いつも神さまに信頼することが出来ますようにお導きください。アーメン。」

(南柏聖書教会牧師 菊池良一)



5月26日

テーマ：「ダビデとゴリヤテ」

聖書箇所：Iサムエル記17章1節～58節

◆今日のみことば

この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは主の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。 Iサムエル記17章47節

◆メッセージ

昔、ペリシテ人の中に最強の戦士と言われる大男がいました。皆さんの周りには大人より、ジャイアント馬場選手(209cm)より、天井よりも背の高い身長290センチの大男その名はゴリヤテさんです。筋肉ムッキムキでとても強く、立派な武具を身に付け、大きな槍も持っていました。



その最強の戦士と闘うのはダビデさんという羊飼いで年齢もまだ若い少年でした。彼がゴリヤテと闘うために持っているのは、いつも羊飼いの仕事で使う杖と石を投げるための投石袋と滑らかな石五つだけでした。どう見てもゴリヤテさんの方が強そうです。普通に考えれば勝つのはゴリヤテさんです。それでもダビデさんはゴリヤテさんを恐れず、「この戦いは主の戦いだ。」(47節)と言って、投石袋を振り回し、石一つでゴリヤテさんを倒しました。



ダビデさんがゴリヤテさんに勝てた理由は何でしょうか。ダビデさんは目の前のゴリヤテさんと戦うのは自分ではない、どんな人間よりも優れた神さま、なんでもできる全能の神さまが戦ってくれると知っていました。ダビデさんはこの戦いだけではなくいつも神さまがダビデさんを守り、救い、力を与えてくださっていることを信じていました。(37節)そして神さまはいつもダビデさんに力を与え、ダビデさんに大勝利を与えました。

私たちは自分には大きすぎてムリだと思ってしまうような問題や出来事と戦わないといけないことがあります。もし自分にはムリだと思ったらそれは自分の戦いになってしまっているのです。そんな時は神さまが助けてくれることを忘れてしまっているのでしょうか。

でも困った時、苦しい時、いや、どんな時も聖書の本当の神さまを信じて進むことが大事です！神さまが絶対に皆さんに力を与え守ってくださいます。全能の神さまが私たちいつも一緒にいてくださいます。このことを信じていることができれば、もうあなたの戦いじゃない、主の戦いです！もう勝ったも同然！神さまがあなたを通してすごい働きをしてくださいます！だからいつも神さまを信じて恐れず進んでいきましょう！どんな時も神さまにお祈りして、いつも神さまの御言葉から力をもらって歩んでいきましょう！

◆お祈り

「神さまの力を信じて、私たちの目の前にある物事に取り組んでいくことができますように。」

(麻布霞町教会牧師 後藤正樹)

5月27日

テーマ：「愛は人を輝かせる」

聖書箇所：Iサムエル記18章1節～5節

◆今日のみことば

ヨナタンは、自分と同じほどにダビデを愛したので、ダビデと契約を結んだ。

Iサムエル記18章3節

◆メッセージ

皆さんには、何人くらいの友だちがいるでしょうか。たとえ一人であっても、苦しい時や悲しい時に、いつも励ましてくれるならば、それが本当の友だちといえるでしょう。



ダビデさんにはヨナタンさんという友だちがいました。ヨナタンさんはイスラエルの国のサウル王の子ども、つまり、イスラエルの王子です。ですから、次の王様になれるチャンスがヨナタンさんにはありました。

ある時、ダビデさんがペリシテ人との戦いにおいてゴリヤテさんを倒して大活躍をしました。そのことがサウル王の目にとまりました。サウ

ル王はダビデさんのことを大変気に入り、自分の王宮にまで連れていき、特別にもてなしたのです。ヨナタンさんは、王様が自分よりもダビデさんをおもしろいと感じていることを悔しいとは思わず、むしろダビデさんを大切な友だちにしようと、友情のしるしを交わしました。さらに、自分の大切な上着や戦いのための道具を与え、ダビデさんに愛と友情を示したのです。



ダビデさんはますます活躍して、サウル王から戦士の長に任命され、まわりの人々からも喜ばれるようになっていきました。そしてついにダビデさんが王様になる時がきました。ヨナタンさんは、イスラエルの王子である自分ではなくダビデさんが王になることがわかって、ダビデさんへの愛と友情を変えることはありませんでした。自分が王様にならなくても、友だちであるダビデさんが王様になること、それがヨナタンさんの喜びだったのです。ヨナタンさんの愛と友情があってダビデさんは困難を乗り越えて、輝かしいイスラエル王様になれたのです。



私たちにはイエスさまという素晴らしい友だちがいます。イエスさまは神さまの子どもですが、私たちが輝かせるために、十字架にかかり苦しみを受け、命がけで愛してくださいました。ですから、今度は、私たちが友だちを大切に、その人を愛し輝かせる歩みをしていきましょう。

◆お祈り

「神さまの力を信じて、私たちの目の前にある物事に取り組んでいくことができますように。」

(平和台恵教会牧師 奥山信)

5月28日

テーマ：「ダビデとサウル王」

聖書箇所：Iサムエル記24章1節～22節

◆今日のみことば

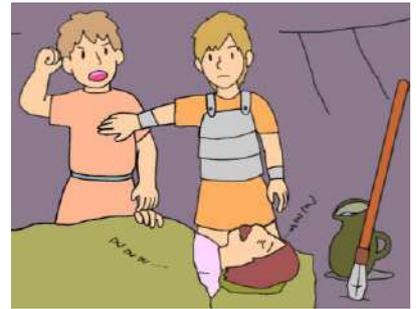
どうか主が、さばき人となり、私とあなたの間をさばき、私の訴えを取り上げて、これを弁護し、正しいさばきであなたの手から私を救ってくださいますように。

Iサムエル記24章15節

◆メッセージ

今日は、神さまと共に歩んだダビデさんのお話です。

幼いころから神さまを信じるダビデさんは、どんなことでも祈り、神さまと共に歩む正しい人です。そして、神さまが選んだサウル王に忠実に従っていました。初めはサウル王もダビデさんも、神さまを信じていました。そして、一緒にイスラエルの国のために力を合わせて働いていました。ところが、サウル王の心が、神さまから離れていくと、正しい判断ができなくなっていました。神さまに従うよりも、自分が一番偉いと思う王になっていましたから。自分よりもダビデさんのほうが戦う力が強くなり、人々からも愛されるようになったとき、ダビデさんをねたみ、悪い力が働いて何度も何度も殺そうとしました。



でも、ダビデさんは違っていました。今日の聖書を読むとダビデさんがサウル王を殺せるチャンスがあったにも関わらず、神さまが選んだ王に対して決して悪いことはしませんでした。なぜなら悪を行う者への神さまのさばきを恐れていたからです。しかしサウル王の憎しみは強く、どうしてもダビデさんを殺さなければならないと思っていたのです。そこでダビデさんは「どうか主が、さばき人となり、私とあなたの間をさばき、私の訴えを取り上げて、これを弁護し、正しいさばきであなたの手から私を救ってくださいますように。」と、サウル王に語りました。

なぜダビデさんが、さばきを主に頼んだのでしょうか。ダビデさんは神さまだけが、すべてのことも、すべての人の心も知っておられ、正しいさばきをされる方だと信じていたからです。なんとダビデさんが語り終えたとき、神さまがサウル王の真実を見る目を、開かれました。そしてダビデさんとの仲直りに導かれました。

神さまにおまかせします



今日のお話から、神さまはどんな状況の中であっても、神さまとして働かれるお方であること。また、神さまを信じる者の幸いと神さまから離れた者が罪に陥ってしまうことの、大きな違いもありました。私たちもダビデさんのように神さまと共に生きる者として

していただきましょう。

◆お祈り

「どんなときでも、神さまから目をはなさず、従うことができますように。」

(世田谷中央教会牧師 安藤啓子)

5月29日

テーマ：「ソロモンの^{ねが}願い」

聖書箇所：I 列王記3章3節～15節

◆今日のみことば

見よ。わたしはあなたに^{ちえ}知恵の^{こころ}心と^{はんだん}判断する^{こころ}心を与^{あた}える。

I 列王記3章12節

◆メッセージ

皆さんは、何か^ほ欲しいものがあるなら^い言^いって^いごらん^いなさいと言^いわれたら、何と^な答^{こた}えますか。「ゲーム、お^{かね}金、自^{じてんしゃ}転車」など^{ねが}いろいろな^{ねが}お願い^{ねが}ごと^{ねが}が^{ねが}でき^{ねが}そう^{ねが}です^{ねが}ね。

今^{いま}から^{やく}約^{ぜんねんまえ}3千^く年前^くに、^{おうさま}イスラエル^{おうさま}という^{おうさま}国^{おうさま}に^{おうさま}ソロモン^{おうさま}という^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}が^{おうさま}いま^{おうさま}した^{おうさま}。^{おうさま}ソロモン^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}は^{おうさま}あ^{おうさま}の^{おうさま}有^{おうさま}名^{おうさま}な^{おうさま}ダ^{おうさま}ビ^{おうさま}デ^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}の^{おうさま}子^{おうさま}ども^{おうさま}で^{おうさま}した^{おうさま}。ある^ひ日^{かみ}、^{おうさま}神^{おうさま}さま^{おうさま}は^{おうさま}ソロ^{おうさま}モン^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}に「何^なか^ほ欲^ほしいものがあるなら、それを^いあげ^いよう」と^い言^いわれ^いました。ソロ^{おうさま}モン^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}は、ダ^{おうさま}ビ^{おうさま}デ^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}と^{おうさま}いう^{おうさま}り^{おうさま}っ^{おうさま}ぱ^{おうさま}な^{おうさま}お^お父^{とう}さん^おが^おい^おま^おした^おので^おうれ^おしい^おこと^おも^おた^おく^おさ^おん^おあ^おり^おま^おした^お。し^おか^おし^お、^おソロ^おモン^お王^お様^おは^おこ^おの^お国^おの^お人^おた^おち^おが^おあ^おま^おり^おに^おも^おお^おぜ^おい^おて^お、次^{つぎ}から^{つぎ}次^{つぎ}へ^{つぎ}と^{つぎ}難^{むずか}しい^{むずか}こと^{むずか}が^{むずか}お^{むずか}き^{むずか}て^{むずか}相^あ談^わさ^あれる^あので^あ、ど^あう^あし^あて^あ良^よい^よか^よと^よも^よ困^{こま}っ^{こま}て^{こま}いま^{こま}した^{こま}。そ^{こま}こ^{こま}で^{こま}ソロ^{こま}モン^{こま}王^{こま}様^{こま}は^{こま}神^{かみ}さま^{かみ}に「こ^{こま}の^{こま}お^{こま}お^{こま}ぜ^{こま}い^{こま}の^{こま}国^{こま}の^{こま}人^{こま}々^{こま}に、ど^{こま}ち^{こま}ら^{こま}が^{こま}正^{ただ}しく^{ただ}ど^{ただ}ち^{ただ}ら^{ただ}が^{ただ}間^ま違^{ちが}っ^{ちが}て^{ちが}い^{ちが}る^{ちが}か^{ちが}を^{ちが}き^{ちが}ち^{ちが}ん^{ちが}と^{ちが}教^{おし}え^{おし}て^{おし}あ^{おし}げ^{おし}ら^{おし}れ^{おし}る^{おし}よ^{おし}う^{おし}に^{おし}知^{ちえ}恵^あを^あ与^{あた}え^{あた}て^{あた}く^{あた}だ^{あた}さい」と^{ねが}お^{ねが}願^{ねが}い^{ねが}し^{ねが}ま^{ねが}した^{ねが}。



神^{かみ}さま^{かみ}は^{かみ}ソロ^{おうさま}モン^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}の^{おうさま}こ^{おうさま}の^{おうさま}願^{ねが}い^{ねが}を^{ねが}と^{ねが}と^{ねが}も^{ねが}喜^{よろこ}ば^{よろこ}れ^{よろこ}ま^{よろこ}した^{よろこ}。そ^{よろこ}れ^{よろこ}は^{よろこ}自^{じぶん}分^{じぶん}の^{じぶん}た^{じぶん}め^{じぶん}に^{じぶん}も^{じぶん}っ^{じぶん}と^{じぶん}お^{じぶん}金^{かね}が^{かね}欲^ほしい^ほと^ほか^ほ、も^ほっ^ほと^ほ偉^{えら}く^{えら}な^{えら}り^{えら}た^{えら}い^{えら}と^{えら}か^{えら}願^{ねが}わ^{ねが}ず^{ねが}に^{ねが}、^{ねが}国^{くに}の^{くに}人^{ひと}々^{ひと}の^{ひと}た^{ひと}め^{ひと}に^{ひと}知^{ちえ}恵^あを^あく^あだ^あさい^あと^あ願^{ねが}った^{ねが}か^{ねが}ら^{ねが}で^{ねが}す^{ねが}。そ^{ねが}こ^{ねが}で^{ねが}神^{かみ}さま^{かみ}は^{かみ}ソロ^{おうさま}モン^{おうさま}王^{おうさま}様^{おうさま}の^{おうさま}願^{ねが}い^{ねが}を^{ねが}か^{ねが}な^{ねが}え^{ねが}て^{ねが}く^{ねが}だ^{ねが}さい^{ねが}いま^{ねが}した^{ねが}。い^{ねが}え^{ねが}、^{ねが}願^{いじょう}った^{いじょう}以^{いじょう}上^{いじょう}の^{いじょう}こ^{いじょう}と^{いじょう}を^{いじょう}し^{いじょう}て^{いじょう}く^{いじょう}だ^{いじょう}さい^{いじょう}いま^{いじょう}した^{いじょう}。

みなさん^{おも}も「あ^ほれ^ほが^ほ欲^ほしい^ほ、こ^ほう^ほな^ほつ^ほた^ほら^ほい^ほい^ほな」と^{ねが}い^{ねが}ご^{ねが}と^{ねが}が^{ねが}た^{ねが}く^{ねが}さ^{ねが}ん^{ねが}あ^{ねが}る^{ねが}と^{ねが}思^{おも}いま^{おも}す^{おも}。し^{おも}か^{おも}し^{おも}そ^{おも}の^{おも}こ^{おも}と^{おも}よ^{おも}り^{おも}も^{おも}、^{おも}神^{かみ}さま^{かみ}の^{かみ}み^{かみ}こ^{かみ}こ^{かみ}ろ^{かみ}に^{かみ}従^{したが}う^{したが}た^{したが}め^{したが}に^{したが}必^{かな}要^{かな}な^{かな}こ^{かな}と^{かな}を^{かな}願^{ねが}っ^{ねが}て^{ねが}み^{ねが}ま^{ねが}せ^{ねが}ん^{ねが}か^{ねが}。み^{ねが}な^{ねが}さん^{ねが}の^{ねが}近^{ちか}く^{ちか}で^{ちか}何^なか^なこ^なま^なつ^なた^なこ^なと^なや^な難^{むずか}しい^{むずか}こ^{むずか}と^{むずか}が^{むずか}起^おき^おた^おと^おき^おに^お「神^{かみ}さま^{かみ}、ど^おう^おし^おた^おら^お一^{いちばん}番^{おし}よ^{おし}い^{おし}か^{おし}教^{おし}え^{おし}て^{おし}く^{おし}だ^{おし}さい」と^いお^い祈^{いの}り^{いの}し^{いの}ま^{いの}し^{いの}よ^{いの}う^{いの}。神^{かみ}さま^{かみ}が^{かみ}願^{ねが}っ^{ねが}た^{ねが}以^{いじょう}上^{いじょう}の^{いじょう}こ^{いじょう}と^{いじょう}を^{いじょう}し^{いじょう}て^{いじょう}く^{いじょう}だ^{いじょう}さい^{いじょう}いま^{いじょう}す^{いじょう}。

◆お祈り

「困^{こま}った^{こま}こ^{こま}と^{こま}が^{こま}起^おき^おた^おと^おき^おに^お「ど^いう^いし^いた^いら^い一^{いちばん}番^よ良^よい^よの^よか^よわ^わか^わる^わよ^わう^わに^わし^わて^わく^わだ^わさい。」

(大井教会伝道師 筒井光恵)

5月30日

テーマ：「^{よげんしゃ}預言者エリヤ」

聖書箇所：^{れつおうき}列王記^{しょう}17章^{せつ}1節～^{せつ}16節

◆今日のみことば

エリヤを^{とお}通して^い言われた^{しゅ}主のことばのとおり、^{こな}かめの^つ粉は^{あぶら}尽きず、^{あぶら}つぼの^{あぶら}油は^{あぶら}なくな^{あぶら}らなかった。^{れつおうき}列王記^{しょう}17章^{せつ}16節

◆メッセージ

イスラエルの王^{おう}アハブは、^{まこと}真の^{かみ}神さまを^{おが}拝まないで、^{ぐうぞう}偶像^{おが}バアルを^{つか}拝み、^{かみ}仕えました。神さまは、^{じぶん}ご自分の^{つか}しも^{かみ}ベエリヤさんを^{かえ}遣わし、^{さと}神に^{さと}帰るように^{さと}諭されました。



そして、「^にここ^{さんねん}二、^{あいだ}三年の^{つゆ}間は^{あめ}露も^ふ雨も^ふ降らないであ^ふろう」と^く悔い^{あらた}改めるように^{もと}求められました。^{じじつ}事実、^{とお}その^{さんねんかん}通り^{つゆ}それから^{あめ}三年間^ふは、^ふ露も^ふ雨も^ふ降りませんでした。^くイスラエルの^{ききん}国全体が、^{みず}飢饉^たになりました。^{もの}水も^た食べ物^{もの}も^ななくな^なって^なきました。^{もちろん}勿論、^{かみ}神の^{かみ}しも^あベエリヤさんも^あ例外^あでは^あありませんでした。^{かみ}けれど、^{つか}神に^{かみ}仕え、^あ神を^あ愛^あする^あ人々^あには、^{かみ}神さまは、^{とくべつ}特別な^{ほうほう}方法^{やしな}で^{やしな}養^{やしな}って^{やしな}くださ^{やしな}り、^{みず}水も^た食べ物^{もの}も^{じゅんび}準備^{ほうほう}して^{ほうほう}くださ^{ほうほう}いました。^{ほうほう}どんな^{ほうほう}方法^{ほうほう}

でしょうか。

^{だいち}第一は、^{かみ}「^{みことば}神さまの^{かみ}御言葉」^いによって^いです。神さまは「…^いへ^い行きなさい」と^い言われました(17: 3、8、14)。エリヤさんは^{とお}その^{さんねんかんみず}通り^たにして、^{もの}三年間^{こま}水や^{こま}食べ物^{こま}に^{こま}困り^{こま}ませんでした。^{だいに}第二は、^{きせき}奇蹟^{きせき}によって^{きせき}です。神さまの^{かみ}約束^{やくそく}でした。神さまは、「^{かみ}烏(カラス)」と「^{ひとにぎ}一握りの^{こな}粉と^{すこ}少しの^{あぶら}油^{あぶら}を持って^{あぶら}いた^{あぶら}貧^{あぶら}しくても、^{しんこう}信仰^みに^{おやこ}満ちた^{やしな}親子」^{やしな}によって、^{やしな}エリヤさんを^{やしな}養^{やしな}って^{やしな}くださ^{やしな}いました。

その^{けっか}結果、^{さいご}エリヤさん^{のこ}だけでなく、^{こな}最後^{あぶら}に残^{ひとくち}った^{ひとくち}粉と^{ひとくち}油^{ひとくち}で^{ひとくち}一口^{ひとくち}の^{ひとくち}パン^{ひとくち}を^{ひとくち}食^{ひとくち}べて^{ひとくち}死^{ひとくち}の^{ひとくち}う^{ひとくち}として^{ひとくち}いた^{ひとくち}親子^{ひとくち}も^{ひとくち}救^{ひとくち}って^{ひとくち}くださ^{ひとくち}いました。^{ひとり}一人^{ひと}の^{しんこう}人^{しんこう}の^{しんこう}信仰^{しんこう}は、^{たす}この^{ひつよう}ように^{ひと}助け^{およ}を^{かみ}必要^{かみ}として^{かみ}いる^{かみ}人^{かみ}にも^{かみ}及^{かみ}ぶ^{かみ}のです。^{したが}神^{したが}さま^{したが}のみ^{したが}こと^{したが}ば^{したが}に^{したが}従^{したが}い、^{かみ}神^{かみ}さま^{かみ}の^{かみ}約束^{やくそく}の^{かみ}うち^{かみ}にある^{かみ}私^{かみ}たち^{かみ}も、^{かみ}神^{かみ}さま^{かみ}の^{かみ}祝福^{しゅくふく}を^{かみ}持ち^{かみ}運^{かみ}ぶ^{かみ}人^{かみ}にな^{かみ}れ^{かみ}ます。



◆お祈り

「^{かみ}神^あさま^あを^あ愛^あし^あ信^あじて、^{かみ}神^あさま^あを^あ必要^あとして^あいる^あ人^あ々に、^{しゅくふく}祝^{しゅくふく}福^もを^{はこ}持ち^{はこ}運^{はこ}ぶ^{はこ}こと^{はこ}が^{はこ}出来^{はこ}ます^{はこ}よう^{はこ}に。」

(白井聖書教会牧師 寺田由弘)

5月31日

テーマ：「主の使いのパンと水」

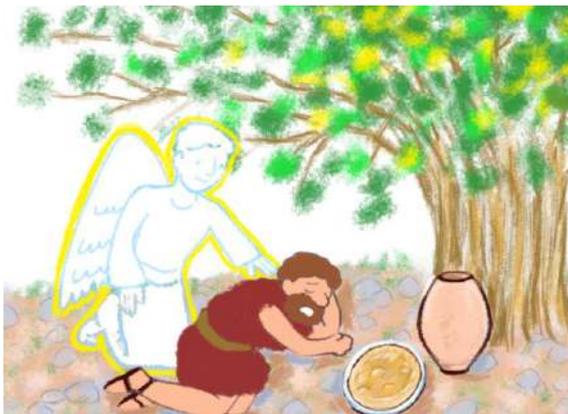
聖書箇所：I列王記19章1節～8節

◆今日のみことば

そこで、彼は起きて、食べ、そして飲み、この食べ物に力を得て、四十日四十夜、歩いて神の山ホレブに着いた。I列王記19章8節

◆メッセージ

預言者エリヤさんは、逃げ出しました。なぜなら、王妃イゼベルがエリヤさんの命を狙っていることがわかったからです。いつもなら、神さまの力によってエリヤさんは平気でしたが、この時は、からだも心も疲れはてていました。エリヤさんは南へ南へと逃げ、木も草もほとんどない荒野という場所に来ました。エリヤさんは、一本の大きな、えにしだの草（小さな木のようにまでなる）が生えているのを見つけ、その草の陰にからだを



横たえました。疲れていたエリヤさんは寝てしまいました。どのくらいたったのでしょうか。誰かからだをさわられ、起こされました。なんとそれは、神さまからつかわされた天使でした。どんな姿で現れたのでしょうかね。考えてみてください。その天使は、エリヤさんに「起きて、食べなさい。」と言いました。そこには、おいしく焼けたお菓子のようパン一つと水が入った壺（入れ物）がありました。何も食べていなかったエリヤさんは、そのパンをととてもおいしく

食べました。暑い日照りの中での水はととてもとてもおいしいものでした。食べ終わると、エリヤさんはまた寝てしまいました。しばらくするとまた天使があらわれ、エリヤさんを起こしました。同じように、パンと水をくださいました。エリヤさんは、すっかり元気を取り戻し、力づけられました。きっと、神さまがいつも一緒にいてくださることを思い出したのでしょう。エリヤさんは、長い長い旅をして、ついに神の山ホレブに来ました。

神さまは、エリヤさんのからだも心の中も、全部を知っておられ、やさしく助けてくださいました。また、さまざま怖いことから守ってくださいました。神さまはととてもやさしいお方です。神さまに、お従いしている人を必ず守ってくださいます。

◆お祈り

「エリヤさんをやさしく守ってくださいました神さま。どんなときでも、見守っていてくださり、ありがとうございます。とても元気が出ます。」

(松戸福音教会牧師 齋藤成美)